治水

発行　全国治水期成同盟会連合会
東京都千代田区平河町2-7-5（砂防会館内）
電　話　03(3222)6663　　ＦＡＸ　03(3222)6664
編集・発行人　大　場　真　弥
印　刷　所　株式会社　白橋印刷所
会員（定価１部100円）その他一般（定価１部150円）
毎月１回15日発行

平成18年度
全国治水大会青森大会の開催

と　き：平成18年６月８日（木）
ところ：青森市ぱるるプラザ青森

（青森県県土整備部提供）

目　次

平成18年度全国治水大会青森大会の開催……1
第58回通常総会を開催……24

梅雨入り前の雲の多いどんよりした天候ではありましたが、大会当日は雨の心配もなく、全国各地から大勢の大会参加者が集ってきました。

1.　開会のことば

平成18年度全国治水大会青森大会は、6月8日(木)、全国治水期成同盟会連合会の第58回通常総会、特別講演に引き続き、同同盟会、青森県、青森市、青森県河川海岸協会が主催して、午後2時30分、会場となった青森市ぱるるプラザ青森には全国の市町村長をはじめ、全国各地から約900名の治水関係者が参加して開催されました。

開会に当たり福士孝衛大会実行委員会会長（青森県河川海岸協会会長、七戸町長）による開会の挨拶があり、同氏が大会の座長に推挙されて大会が進められました。

2.　主催者あいさつ、来賓祝辞等

先ず、陣内孝雄全水連会長（参議院議員）、三村申吾青森県知事ならびに佐藤健一青森市助役がそれぞれ主催者として挨拶をし、清治真人国土交通省技監が国土交通大臣の祝辞を述べられた後、ご臨席いただいている来賓が紹介され、続いて祝電が披露されました。

3.　意見発表、治水事業の視点

小憩の後、意見発表に移り、目黒栄樹山形県長井市長ならびに望月良和静岡県伊豆の国市長が、過去の大災害の実体験をもとに、河川の整備、ダムによる洪水調節等ハードソフト両面からの備えの重要性と、これに対処するための予算の確保の必要性を力強く訴えられました。

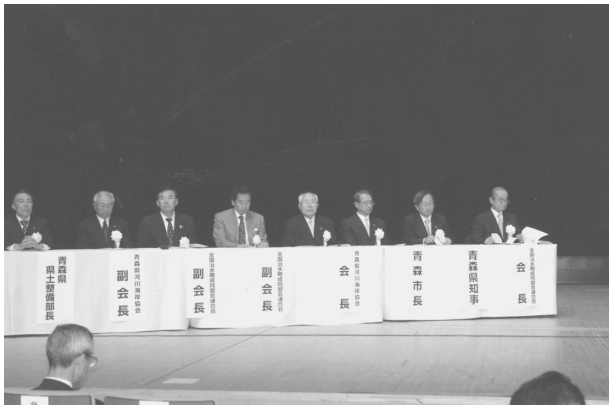
続いて、関克己治水課長から「治水事業の視点」と題して、一昨年来の大洪水時には、整備が進んでいる河川と未だ未整備の河川による被災に大きな差異が顕著に現れ、治水対策の重要性と、厳しい財政上の制約はあるが先行投資の必要性等について、強く訴えられたご説明がありました。

4.　大会決議

続いて、大会決議文を逢坂雄一青森県河川海岸協会副会長（平内町長）が力強く朗読し、全会一致で採択されました。

5.　次期開催地の決定、閉会のことば

次に、次期開催地を栃木県と決定し、宮崎一義栃



主催者席

来賓の方々

会場風景

会場風景

木県河川課長から引き受けの挨拶をいただいた後、羽原伸青森県県土整備部長が閉会の言葉を述べ、平成18年度全国治水大会青森大会は盛会裡にその幕を閉じました。

大会終了後、アトラクションとして津軽三味線のご披露があり、大会参加者はその格調高い音色に引き込まれ、充実した気分で会場を後にしました。

6.　要望活動

大会で決議された要望書をもって、6月21日から適宜の日に関係国会議員の先生方、内閣府、財務省等の関係省に要望活動を実施いたしました。

開会のことば

全国治水大会青森大会
実行委員会会長
青森県河川海岸協会会長
七戸町長

福　士　孝　衛

ご紹介いただきました青森県河川海岸協会会長の七戸町長の福士でございます。

本日、平成18年度全国治水大会を青森県で開催できますことは、われわれにとりましてまことに光栄なことであります。皆様におかれましては、大変ご多忙中のところ、青森県にお出で下さいましたことを感謝申し上げますとともに、心から歓迎申し上げます。

本日のこの大会が住民の生命と財産を洪水被害から守り、安全・安心して暮らせる国土づくりに欠くことのできない、治水事業のさらなる推進に向けた実り多い大会となりますことを祈念いたしまして開会の言葉とかえさせていただきます。

よろしくお願い申し上げます。

主催者挨拶

全国治水期成同盟会
連合会会長
参議院議員

陣　内　孝　雄

本日、ここ青森市におきまして平成18年度全国治水大会を開催いたしましたところ、国土交通省の清治技監、成田県議会議長様をはじめ、多くのご来賓の方々、また、全国各地から治水関係事業の推進にご活躍されておられます市町村長様、各関係の皆様方にこれまた多数ご参集いただきまして、本大会がこのように盛大に開催できますことは、主催者の一人といたしましてまことに心強く、また、皆様方の深いご理解・ご協力に心から敬意を表する次第でございます。

また、本大会を開催するに当たりまして格別のご高配を賜りました青森県知事様をはじめ、関係の皆様方に対し、厚く御礼を申し上げます。

ここ青森県は、本州の最北端に位置し、北は津軽海峡を隔てて北海道、南は秋田・岩手両県に接し、三方を海に囲まれた、変化に富んだ冷涼型の気象条件にあります。世界遺産の白神山地に源を発し、津軽平野を貫流する岩木川、ただいまお話がございました岩木川のほかは、流域の短い大小の中小河川が多いのが特徴でございます。

自然の猛威は、北国青森県にも及びまして、平成11年10月には総雨量300ミリを超える未曾有の降雨を記録するなど、馬淵川を中心に八戸地方に大きな災害が発生しました。また、昨年から今年にかけての18年豪雪は、平年の2倍という豪雪をもたらし、12名の尊い人命が失われたところでございます。

かような状況から、青森県では平成13年に全国に先駆けて森・川・海を一体のものとした「青森県ふるさとの森と川と海の保全及び創造に関する条例」を制定されまして、動植物の生態系や自然景観に配慮した多自然型の川づくり・海岸づくりに積極的に取り組んでこられております。徐々にその成果があらわれてきたということでございまして、まことに敬服の至りでございます。

このような時期に治水事業に造詣の深いご当地で本大会を開催できますことは、治水事業を推進する私どもといたしまして時機を得て意義深いものがあると感謝いたしております。

ところで、わが国は、近年全国的に激甚な大災害が頻発し、治水事業の促進が改めて強く求められております。一昨年来の災害を省みますと、一昨年はわが国に上陸した台風が過去最多の10個という異常な気象の年となり、梅雨前線の集中豪雨と相まって全国各地に甚大な被害が発生しました。その7月の梅雨前線による新潟、福島及び福井の集中豪雨、10月の台風23号による円山川、由良川の氾濫、そして、10月には新潟県中越地震が発生し、治水施設の災害を含めまして甚大な被害が発生したところでございます。

今後は、東南海・南海地震の発生の確率も高いと言われております。地震対策も一時も気を抜くことは許されない状況になってきているのではないかと心配しております。

その上、昨年もまた9月の台風14号によりまして九州・四国地方を中心に甚大な被害が発生し、秋雨前線によって東京都の神田川流域において大きな浸水被害が発生しました。

外国においても、アメリカのハリケーン・カトリーナの大災害にも見られますように、本当に世界的に大きな災害が発生している。昨今は、気象変動の影響によって、降れば大雨、降らないときは干ばつ、というふうに非常に降雨のばらつきが大きくなって、台風や集中豪雨、渇水が増加する傾向にあります。

一方、水不足への備えも、地球温暖化傾向を踏まえれば一段と重要さが増しております。昨年は四国地方の吉野川、那珂川等で取水制限が行われました。市民生活に大きな影響を与えたところでございます。

近年、年間の降水量が減少傾向にありまして、全国のあちこちで渇水が発生しており、水資源開発施設の計画的な整備もまた重要になってきております。

このように、痛ましい自然災害が毎年全国各地で頻発するのは、わが国土がもともと地形、地質、気象、地震などの自然的諸条件が厳しい上に、財政上の制約もありまして治水施設の整備が思うように進まないからであります。私たちは、常に水害の危険と背中合わせに暮らしているということをいつも強く認識しておくべきだと思います。

ところで、政府におかれましては、国民の生命と財産を守り、真に国民が安心して生活できる、災害を未然に防止する災害予防が国の責務であるとお考えになっておられまして、今年も平成19年度の概算要求の時期が迫っておりますので、この財政的な制約を踏まえまして、治水対策としてハザードマップの整備を推進し、あるいは、昨年5月には水防法を改正して浸水の想定区域の指定対象河川を主要な中小河川まで拡大するというようなことで、避難勧告等に必要な水位の情報を提供するなど、つまりハードやソフト一体となった減災対策を推進していただいているところでございます。

そこで、当連合会といたしましては、平成19年度治水関係事業予算の必要額をぜひ確保していただきたいということで今日の大会を開催したわけでございますが、この大会を契機にいたしまして、皆様方の総意が実現できるようにがんばってまいります。

どうかご参集の皆様方の力強いご支援をお願い申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げましてあいさつといたします。

本日はご参集、まことにありがとうございました。よろしくお願いいたします。

青森県知事
三　村　申　吾

ただいまご紹介いただきました青森県知事の三村申吾と申します。

全国から、ほんとうに南は沖縄、北海道は隣でございますけれども、全国の皆様方が、一番新緑、緑の美しい私どもの青森、この6月の時期においでいただきましたことを心から私ども感謝申し上げたいと思います。

秋のリンゴの一番おいしい時期もいいですし、また、8月ですと、先ほど立佞武多がございましたが、ねぶたあり、ねぷたあり、立佞武多あり、さまざまに観光のすばらしい青森なのでございます。昨日も

――あいさつしないで営業しているみたいですけれども、昨日も、大変私どもの青森の市内、多くの、あれ今日はお客様が多いなあ、そうだそうだ、治水大会があるんだ、ほんとうにありがたいな、治水大会さまさまだという思いでございましたが、ホタテはおいしい時期でございますし、ニンニクはありますし、長いもをすって食べていただければ、今日も元気にこうして大会においでいただけると、そう考えるわけでございますが、北の青森、食、そしてまたいい温泉、そしてまたすばらしい自然に恵まれている地域でございます。

そしてまた、こういったすばらしい食もそうですが、自然もそうですが、その源となっておりますのが、やはり川でございます。青森にはすばらしい森林資源があり、その山から発します、広葉樹の間を通ってきます水が、河川が、このわれわれのふるさと青森のいい土をつくりまして、いい実りを得る。そしてまた、それが海に出ましてプランクトンのえさとなりまして、沿岸漁業、ヒラメ、日本一ですし、ホタテ、日本一でございますし、そういった――大間のマグロは冬でございますけれども、今の時期ではなくて申しわけございませんが、そういったすばらしいものをつくっているのでございます。われわれ青森県は、まさに水の恵み、河川の恵み、そのお世話になっている、その思いひとしおでございます。

さて、今日お集まりの皆様方は、それぞれ全国におきまして治水事業の推進に多大なご支援・ご協力をいただいている皆様方であると思うのでございます。そしてまた、それぞれの地域において川というものは流域に豊かな恵みをもたらすわけでございますし、人々の生活に潤いと安らぎを与えてくれるものでございます。

しかしながら、時として河川というものは暴れまくることがある。それはまた自然でありますが、公共事業の中においても、この治山治水という分野、まさにわれわれの歴史始まって以来大切とされてきた、最も早くから始まったものなのでございます。私どもの三内丸山の遺跡、ごらんいただいた方々もいらっしゃるかもしれませんが、その三内丸山遺跡縄文の時代において、既に「河川事業」と言うのも何でございますが、土どめ工等を含めて河川災害対策の仕事が行われていたと、そういうシビル・エンジニアリング発祥の地でもあるとわれわれ青森県は考えているのでございます。

であればこそ、こうして全国の皆様方が青森をまさに大会の場所と選んでいただき、青森において縄文の昔から始まっている河川、そして治水のあり方、その仕組みについてさまざまに意見交換をしよう、その集まりだと思うのでございます。

われわれ青森県におきましても、ただいま会長先生からもお話しいただいたわけでございますけれども、さまざまな災害の未然防止、あるいは被害軽減のための施策を、今展開しております。そして、何よりも、今大切とされておりますハザードマップ等を整備し、河川改修事業、ダム事業、社会資本の整備を着々と進めているのでございます。また、ＩＴの時代、いわゆるユビキタス時代に対応いたしまして、河川の洪水情報等を登録していただいている方々に早目に流す仕組み等を着々と整えつつある。

しかしながら、私どもがともにこの治山治水という大変大切な仕事を進めていくためには、総事業量をきちんと確保すること、そして、それぞれの事業に対して地域の方々の大きなご理解をいただくこと、それは国民の理解ということでございますが、そのことが大変に大切であると考えるのでございます。

その意味をもちまして本大会等においてさまざまに話し合われること、決議されること、そういったことがこの国の安全と安心、まさに治水事業、河川事業、そういったものを維持していく大きな役割を持っていると知事として考えるのでございます。

何とぞ会長先生をはじめといたしまして、今日は本省から技監をはじめといたしましてこの分野の大変責任のある方々がお集まりでございます。このわれわれの青森の大会を機といたしまして、大切な治山治水、水、まさに大切な水を守っていくその事業がますます進展し、そして、そのことによってこの日本の国、お集まりの皆様方の都道府県それぞれ、市町村それぞれがまさに安心の暮らしが保たれますことを心から願いまして青森県知事としての歓迎のごあいさつとさせていただく次第でございますが、大会終了後、何とぞすばらしい新緑の状況でございます。すばらしいですよ。古代の生態系そのままが残っている白神山地、ちょっと山歩きはきついのでございますが、おいしい水がいっぱい飲めますし、また、十和田湖、奥入瀬、岩木川、下北半島、これはもう下北半島に行ったら驚きますね。日本にはまだこういう、ほんとうの意味で秘境があったのかと。秘境があったと言うと地元の市長さん方もお見えになっていますけれども、暮らしはしやすいところで

ございますが、風光明媚なところがあったんだと。そしてまた、「あれをごらん、竜飛岬」、歌はご存じでございましょう。ここに立たずして青森に来たかいがあるのかというさまざまなポイント、ポイントがございますので、何とぞ大会終了後はそういったところもせっかくの機会でございます。青森までわざわざ九州や沖縄から来ていただいたわけでございますから、そのまま帰ったら報告書を書くときに困る。レポートを書くに当たって、青森の河川事業、まだまだあった、もっとやらなければいけないだろうと、そう書いていただければと思っております。とまれ皆様方、何とぞ青森県へおいでいただきました限りにおきましては、ゆっくりと楽しんでいってください。いい温泉もあります。

終わります。ありがとうございました。

青森市長代理
青森市助役
佐　藤　健　一

あいにく市議会開会中のために佐々木誠造市長が出席かないません。代わりまして私から一言ごあいさつを申し上げさせていただきます。

本日、全国各地から治水大会に取り組んでおられる皆様を、ここ、新緑の青森にお迎えし、平成18年度全国治水大会青森大会が盛大に開催されますことは、まことに喜ばしく、32万青森市民を代表いたしまして心より歓迎申し上げます。

また、ご来賓の皆様並びに本日ご出席の皆様方におかれましては、日ごろから住民生活の安定と地域の発展のため、人命と財産を守る治水事業の計画的かつ着実な推進にご尽力されておられますことに対しまして深く敬意を表する次第であります。

先ほど来のお話にもございましたが、わが国はその地理的・自然的条件から、毎年のように台風や集中豪雨などによる自然災害が発生しております。一昨年の新潟、福島、福井県などで相次いで発生しました集中豪雨では、実に多くの人命や財産が奪われるなど､甚大な被害に見舞われたところであります。

当青森市におきましては、１万3,000棟もの住宅が浸水被害を受けた昭和44年の台風９号の集中豪雨による大洪水以降、幸いにも大きな水害は発生しておりませんが、予見が難しい自然災害から市民の生命と財産を守るための基本政策の１つとして、四季折々に水と緑と共生する安全ですみよいまちづくりの創造を掲げ、関係機関、団体との緊密な連携のもと、危機管理体制を確立するとともに、青森市が有する豊かな自然との適切な調和を図りながら、河川の改修やダム、遊水池等の整備などによる総合的な治水対策に取り組んでいるところであります。

このような中、全国において治水対策に第一線で取り組んでおられる皆様が一堂に会し、治水事業の強力な推進や災害発生時の速やかな対応と、多様な治水対策についてさまざまな意見が交わされますことは、まことに意義深く、この大会が実り多きものになりますことを心から念願するものであります。

本日は、この新緑の青森市に皆様をお迎えしておりますが、皆様のまちにもたくさんのお国自慢があるとは思いますが、ここ青森市にも雄大な八甲田連峰や恵み豊かな陸奥湾、国の特別史跡である三内丸山遺跡、そして、夏の祭り本番に向け、既に製作が始まっております青森ねぶた、さらには、小玉ではありますが歯ごたえがあってなかなかジューシーな「おぼこいりんご」、先のオリンピックで有名になりました女子カーリングの「チーム青森」など、ここにしかない彩り豊かな宝物がたくさんございます。大いに楽しんでいただければと存じます。

また、明日は、県内各地において現地研修会が開催されると伺っております。この機会にぜひ陸奥青森を十分に満喫していただき、思い出多き大会としていただければ幸いに存じます。

結びに、全国治水大会のさらなる発展と本日お集まりの皆様のますますのご健勝・ご活躍を心よりご祈念申し上げ、ごあいさつといたします。

本日はまことにありがとうございます。

来賓祝辞

国土交通大臣代理
国土交通省技監
清　治　真　人

国土交通省技監の清治でございます。大臣、ただいま国会の真っ最中でありまして、今日も国土交通委員会で建築基準法の審議をやっている最中でございます。私にこの大会に行って皆様方にしっかりとご挨拶してくるようにということで参りました。

大臣、一昨年の9月にご就任されましたが、その直後から、先ほど陣内会長からお話がありましたように10個の台風が上陸したうちの3個が毎週のように上陸して、23号では特に大変な被害を受けたわけでありまして、その後、国土交通省の行政の一番大事な事項に国民の安全・安心を確保していくのだということで常々申しております。この大会にお集まりになりました皆様方には日ごろからご支援いただいているわけでありますが、特に大臣の意をお伝えしたいと思います。

予算の制約等の話もございましたが、あわせて、各地域でいろいろな問題を抱えながら事業を進めているわけでございます。これからも皆様方には、そういう側面からのご支援もあわせて賜りますようお願い申し上げたいと思います。

今日から九州の北部、それから四国、中国が梅雨入りいたしました。これからまたなかなか心休まらない時期が続くわけでございますが、皆様のがんばりにまた期待したいと思います。青森大会ということで、昨年の九州に引き続き大変治水に対する、水に対する理解の深いところ、そして、これからまだまだ事業が必要なところでこの大会が開かれますということを大変有意義に感じております。

先ほど、三村知事から、若干郷土自慢が多かったような感じはいたしますが水に対する深い思いやりのお言葉をいただきましたし、常々私どもも勇気づけられているわけでございます。

大臣からの祝辞を預かってまいりましたので、代読をさせていただきたいと思います。

本日ここに平成18年度全国治水大会が開催されるに当たり、一言ごあいさつ申し上げます。

ご列席の皆様には平素から国土交通行政の推進につきまして多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

ご承知のとおり、わが国は地理的条件や気象条件等から、洪水、地震などの自然災害を受けやすい環境にあり、全国各地で毎年のように大きな災害に見舞われております。海外においても、ハリケーンによって米国ニューオーリンズが甚大な被害を受けるなど、世界各地でも大雨や大干ばつなどの異常気象が多発しております。また、昨年は、西日本を中心とする渇水により最も多いときで20水系にも及ぶ取水制限が行われ、各地に深刻な影響を及ぼしてまいりました。

自然災害から国民の生命と財産を守り、活力ある経済社会と生活環境の基盤となる安全で安心できる国土づくりを進めていくこと、一言で言えば減災が国土交通行政の最優先課題であります。住民の方々が一刻も早く安心して生活できるよう、国土交通省では地域の復興と再度災害の防止に全力を挙げて取り組んでいるところであります。厳しい財政状況を背景に、今年度も処々の改革の議論がされているところですが、改革はまず第一に、それぞれの地域の治水の現状をきちんと踏まえたものでなければなりません。第二に、21世紀の重大課題である気候変動の状況を的確にとらえつつ、これらによる自然災害から国民の生命と財産を守るという安全・安心の国土づくりに重点を置いたものとしなければなりません。そして、第三に、国と地方がしっかりとスクラムを組み、機動的に対処していけるような仕組みを確保していかなければなりません。

今後とも国土交通省といたしましては、豊かな生活環境と美しい自然環境の調和した安全で活力ある経済社会を実現するため、治水施設の整備を促進するとともに、ハザードマップの整備や避難体制の構築など、ハード・ソフト両面からの整備を計画的、重点的に推進してまいる所存でありますので、なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本日、全国各地の治水事業にかかわる方々が一堂に会され、治水大会が開催されますことは、まことに意義深いことであり、皆様の貴重なご意見を今後の施策に十分反映させ、国民の安全・安心の向上に努めてまいりたいと考えております。

終わりに、本日ご列席の皆様の治水事業に対するご尽力に対し、改めて敬意を表しますとともに、今後ますますのご発展とご健勝を心から祈念いたしまして私のお祝いの言葉といたします。

平成18年6月8日

国土交通大臣　北　側　一　雄

代読させていただきました。

来　賓　紹　介

―順不同・敬称略―

衆議院議員（代理）

津　島　雄　二　　江　渡　聡　徳
大　島　理　森　　木　村　太　郎
横　山　北　斗

参議院議員（代理）

田名部　匡　省　　山　崎　　力
椎　名　一　保

国土交通省技監　清　治　真　人
東北地方整備局長　森　永　教　夫
国土交通省河川局治水課長　関　　克　己
青森県議会議長　成　田　一　憲
青森県建設委員会委員長　上　野　正　蔵
青森県町村会会長　中泊町長　小　野　俊　逸
青森県市議会議長会会長　青森市議会議長　間　山　　勲

祝電ありがとうございました

―順不同・敬称略―

衆議院議員

下　条　み　つ　　石　田　祝　稔
田名部　匡　代　　津　島　雄　二
小　池　百合子　　小　里　泰　弘
平　口　　洋　　臼　井　日出男
金　子　恭　之　　綿　貫　民　輔
吉　野　正　芳　　武　藤　容　治
山　口　泰　明　　漆　原　良　夫
岡　部　英　明　　近　藤　基　彦
木　村　太　郎　　高　木　美智代
御法川　信　英　　七　条　　明
山　崎　　拓　　小　島　敏　男
三ツ林　隆　志　　塩　崎　恭　久
中　川　秀　直　　船　田　　元
長　勢　甚　遠　　岡　本　芳　郎
武　田　良　太　　横　山　北　斗
北　村　誠　吾　　竹　本　直　一
中　山　泰　秀　　山　本　有　二
木　村　義　雄　　鳩　山　邦　夫
中　川　昭　一　　広　津　素　子
田　村　憲　久　　大　島　理　森
江　渡　聡　徳　　秋　葉　賢　也
飯　島　夕　雁　　平　井　たくや
松　本　　純　　井　澤　京　子
山　本　幸　三

参議院議員

羽　田　雄一郎　　関　口　昌　一
脇　　雅　史　　水　落　敏　栄
泉　　信　也　　田名部　匡　省
山　崎　　力　　愛　知　治　郎
金　田　勝　年　　山　内　俊　夫
川　口　順　子　　橋　本　聖　子
関　谷　勝　嗣　　矢　野　哲　朗
狩　野　　安　　岩　井　國　臣
小　野　清　子　　福　島　啓史郎
下　田　敦　子

意　見　発　表

長井ダム建設から「ながい百秋湖」づくりへ

山形県長井市長
目　黒　栄　樹

全国からお出でいただきました皆さん、山形県の長井市長の目黒栄樹でございます。この発表ができることを大変光栄に思っております。

私は、元気だけが取り柄、声だけは大きい、それ

から、国土交通省の皆さんには大変厚意、温かいご支援をいただいておりまして、国会では「族議員」という言葉があるそうですが、私は「国土交通省族市長」と言われておりまして、東北の直轄ダムの会長もさせていただいておりますし、いち早くフットパスに取り組みまして、山形県でフットパスの会長もさせていただいております。

まず、タイトルは、「長井ダム建設から『ながい百秋湖』へ」。

百秋湖というのも非常にいい名前であります。湖で公募をしましたら、由来は古事記からあるのですが、百秋湖。名水百選とか、風景百選とか、美人百選はないかな。すべての秋が集まってくるすばらしいところであります。

長井市は、山形県の南西部にあります。米沢から北へ約30キロ。県を横断しております最上川の発祥の地であります。米沢から来る松川、あるいは飯豊から来る白川、そしてもう一つ、今ダムをつくっております野川の３つが集まりまして、そこから約180キロ、酒田につながります。酒田から北前船で江戸時代は船運で栄えたまちでありました。人口は約３万１千人ぐらいであります。

長井の地名は、「水の集まるところ」というのに由来します。地下水がまことに豊富であります。この豊かな水資源に着目し、戦前から製糸業あるいは撚糸産業など、多くの企業が立地しまして、ものづくりでも栄えてまいりました。

キャッチフレーズは「水と緑と花の長井」であります。水は、これからご説明を申し上げますが、緑は緑を守ろうというので「不伐の森」というのもありますし、それから、地域内循環で「レインボープラン」によって安全・安心な食物をつくる、地域内循環をする、われわれはそういういろいろなことを先進的にやってまいりました。

また、河原では、山形県の名物であります「芋煮会」、あるいは毎年「長井水祭」と称して国土交通省さんからも「かわとぴあ」という名前でご一緒に開催させていただいており、多くの市民が水と川に親しんでおります。

国土交通省さんのご支援のもとのフットパス整備事業、水辺の散策でありますが、最上川沿いの散歩道を整備いたしました。それから、町中でも小川や水路が多くありますから、それを歩いて楽しむということでフットパス、これを整備しながら市民の皆さんも楽しんで歩いていただく。お出でいただいた皆さんにも楽しんでいただくようにボランティアガイドによる案内を行っているところであります。

さっきのパンフレットを開きますと、町中に全部で10コースあります。６月17・18日に「全国フットパスシンポジウムinながい」を開催します。全国の先進的な事例の皆さんをご紹介いただいてシンポジウムを開きますが、もう７時半くらいまで明るいですからね、夜は町中を歩いていただいて、そして、町中の公園で全国から300名ぐらい来ていただけるでしょうか、市民も参加しまして、会費もいただきますが、野外パーティーもしてみたい。翌日は、最上川をカヌーで体験できたり、あるいは長井ダムの周辺を上のほうにちょっと登山をしていただくとか、６コースを設けまして、そのコースごとに楽しんでいただける、そういう「全国フットパスinながい」もやろうとしているところであります。

今建設中の長井ダムでございますが、町中からわずか直線で８キロです。車でも10分少々です。水没農家はありません。しかし、この野川は、やっぱり大変歴史的には暴れ川でありますので、長井ダムはまず水から生命と財産を守る洪水調節、それから、流水の正常な機能の維持をする、それから、農業かんがい用水、これも確保する、水道用水、これも確

保しておく、一朝有事のときであります。そして、水力発電も機能として持ちます。多目的な機能を持った長井ダムであります。

ダムは、重力式コンクリートダムでありまして、堤体の高さが125.5メートル、堤体面積が120万立方メートルであります。コンクリートダムとしては、東北有数の規模であろうと思います。

写真のように、朝日山系を源とします置賜野川の非常に急峻な山間地でありまして、この置賜野川、何回となく氾濫を繰り返しました。そのたびに田畑、尊い人命を奪ってきたのであります。

これは、その地区に今でも見られるわけですが、鎌倉時代から延々と住民が築き上げてきた石積みの堤防であります。破られては築き、また築いては破られの繰り返しであったということが記録に残っております。江戸時代になりますと、幕府から築堤の奉行が派遣され、今で言う国直轄の工事が施工されました。しかし、その後も、明治22年、36年、38年、昭和13年と、たびたび決壊し、山形県から総合開発計画が出され、地元とともに昭和29年には管野ダム、35年にはその上流に木地山ダムが建設されました。

しかしながら、昭和42年、今から39年前でありますが、羽越災害で最上川が氾濫し、わが町も上流の小さいダムのおかげで直接的な洪水は免れたものの、橋も壊され、内水による浸水もあり、最上川流域沿いと下流で甚大な被害がもたらされました。

もっとしっかりしなければいけないということで、長井ダムは昭和54年に県が実施計画に着手し、59年に国直轄事業として採択されました。

以降、平成3年に付け替え県道、平成12年に本体が着工されました。そして、昨年9月に本体のコンクリート打設量が100万立米に達し、そして、今年は125メートルまで完全にコンクリートの打設が完成する。11月1日には完成式を行いたいと思っているところであります。

昭和42年羽越水害
最上川の氾濫状況

コンクリート打設100万㎥に達した長井ダム

この後は、付け替え県道あるいは管理施設等も整備し、長井市では、このダムを最も環境にもやさしいダムと位置づけたいと思いまして、平成14年7月には既にISO1400を取得しておりますので、環境にやさしいダムとして整備をしてまいりたいと思っているところであります。

その1つが、「不伐の森」の整備であります。平成元年に「不伐の森条例」を制定しました。森林を永久に森林として保全する、そして育み、子孫に末代まで緑の財産として残すということをしまして、市民の皆さんのボランティアによりまして散策道を整備する、枝打ちをする、沼がありますが、じゅんさい沼もきれいにする、そして年に2回は市民もそこを楽しむ、このようなこともやろうとしております。

それから、農業部門で、先ほどもお話ししました「レインボープラン」でありますが、食べたものをお母さん方が分別いたします。箸も入っている、あるいはいろいろなものが入っている。これはまず分別していただく。そして、3日に1回、車でそれを

集めます。そして、畜産の廃棄物と一緒に肥料をつくります。コンポストセンター。そして、それをまた田畑に返していく。安全・安心なものをとる。地域内の循環で安全・安心な食物を、これが「レインボープラン」でありまして、ぜひ安全・安心な農作物を次世代の子供たちに食べさせたい、地域内で食べたい、これを今、実践しているところであります。

こうしたわれわれの活動は、ダム周辺整備にも生かしていきたいと思っております。

周辺整備の概要でありますが、「レインボープラン」の「食の循環」に対し、これは「水の循環」と言ってもいいものではないかと思っております。集水エリア、水を集める、それを分水していく分水エリア、そして田畑や町中の水を利用していく利水エリア、こういうエリアをつくって、水をキーワードにしたまちづくりをしていきたいと思っているところであります。

そのほかにも、ダム上流部の整備箇所で工事残土を受け入れている場所がありますが、これも地すべり対策をしまして、さらに流域住民の皆さんでブナなどの植樹を行う第二の「不伐の森」にしたい、21世紀の「不伐の森」にしたいと思っているところであります。

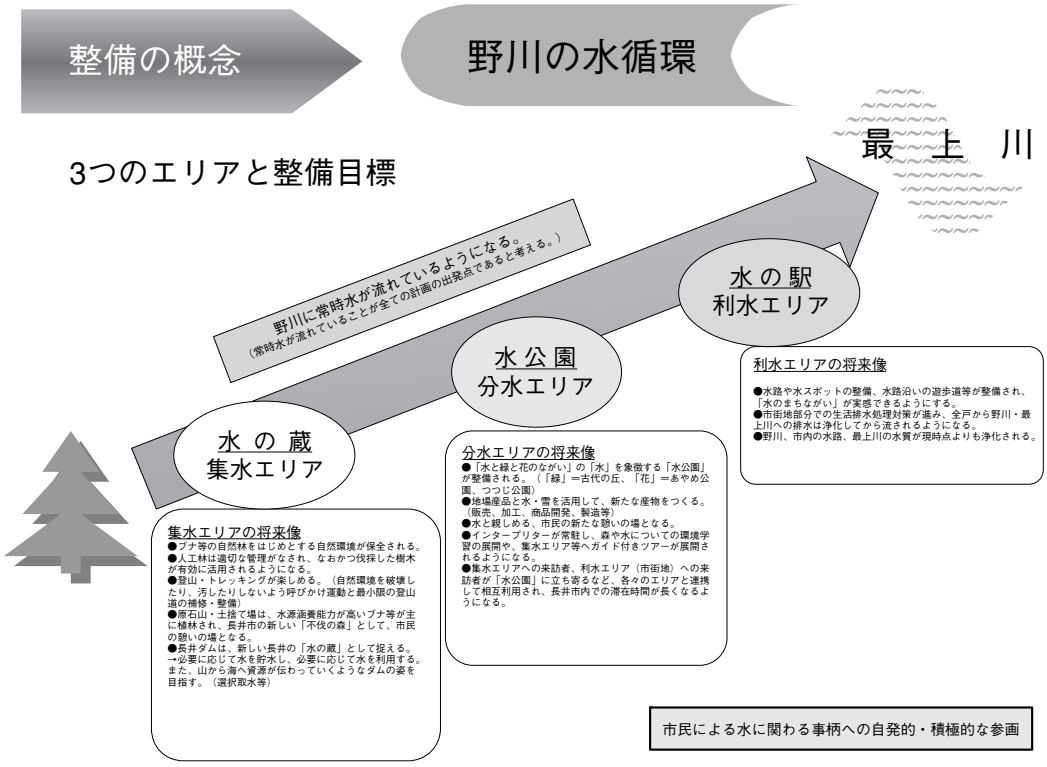
これは、将来の分水エリアでこういうものをこれからやりますから、国土交通省さんにぜひお願いしたいと思っております。

それから、町中の利水エリアでは、きれいな水を生かしたまちづくり、最上川フットパス、あるいは町中の散策フットパス、そして水を大切に川に愛着を持てるようなまちづくりを進めていきたいと思っているところであります。カヌーも体験できるんですね。

最初に申し上げました「ながい百秋湖」、これは公募いたしましたら、学のある人は学があるものでありまして、古事記に「豊葦原之千秋長五百秋之水穂之国」と読みまして、この中の「長五百秋」という部分からとったものであります。読み方は、ホアキは百秋と書いて現代風になっております。長く、久しく、みずみずしく稲穂が実る国、まさにまちづくりで目指しているところであります。

ダムを契機に、改めて長井市は水と緑と花、水を大切にし、緑を守り育て、そして美しい花、美しいまちをつくっていきたい。

花で言えば、４月の桜は久保桜というのが樹齢1200年です。もう一つ、大明神桜というのも1200年で、国指定の天然記念物になりました。１つの町で２本の国指定の桜の天然記念物があるのは長井市だけであります。５月は白ツツジ。もう終わりましたが、６月は500種100万本のアヤメ。美しい花であります。そして、８月は萩。このように、水と緑と花



を大事にしたまちづくりをしていく。そして、秋は紅葉。全山紅葉で、長井の紅葉はダム湖に行けば百秋湖として見られる。新しい観光スポットにもしていきたいと思っているところであります。

最後に、公共事業につきまして、私の考えを若干申し上げさせていただきます。

古来から、政治は水を治める治水、これが一番大事だと言われてまいりました。あのアメリカでも、ニューオーリンズでそうでした。今、中国が一番つくっているのはあの山峡ダム、世界一のダムであります。

水は、もともと人間の社会に欠くことができない。人間の体重の6割も水だそうであります。私も85キロありますけれども、50キロ以上は水であります。ダム建設が自然破壊だと非難する人がいる。田中長野県知事はその最たるものですが、あの人はよくわかっていない。やっぱり自然と調和して上手に自然の恵みを使いながら環境を整える。上流でしっかりと水対策をしなければ、下流のほうは集中豪雨のとき氾濫するじゃないですか。名古屋だってあのとおりになったときがあるじゃないですか。おれのところは知らない、長野県だけはいいんだと、こういう話では政治家としては問題にならないと私は思っております。

東北も、もちろん九州等に比べては比較的災害が少ないわけですが、今は集中豪雨でありますから、どこに来るかわからないわけであります。しかも、過去来た例がいっぱいあるわけですから、そこにはやっぱりしっかりと備えていくことが絶対に必要であります。

今青森では、津軽ダムをつくっていらっしゃるそうでありますが、われわれが終わりましたら、すぐ私も応援にまいりますので、ぜひひとつ一緒にやりたいと思っているところであります。

地域をさらに安全にして豊かにするために、公共事業は絶対に必要でありますし、まだまだ東北地方、われわれのところも、ダムも必要でありますし、河川の整備が必要でありますし、道路も整備が必要であります。道路特定財源を維持するのは当たり前であります。目的税でありますから、まだまだこの目的が日本全土で足らないわけでありますから、これから年金の目的税をつくろうというときに、道路特定財源だけはだめだなんていう、そういうばかな話もない。目的税は目的税として、その目的が達成されたときに返還すべきでありまして、日本全国で特に東北はまだまだ必要でありますから、道路特定財源はぜひ守るように全力で私も微力を尽くしてまいりたいと思っているところであります。

今後とも皆さんと協力をして国土交通省の皆さんともしっかりと力を合わせ、この地域の安全・安心のために、まずダムをつくって、いろいろな必要な公共事業をやっていくことを心から頑張る決意を申し上げまして発表を終わりたいと思います。ありがとうございました。

一級河川狩野川と歩む わがまち伊豆の国市

静岡県伊豆の国市長
望　月　良　和

皆さん、こんにちは。本日は、本大会におきまして意見発表ということで、大変ご配慮いただいたことに心から感謝申し上げたいと思います。伊豆の国市という名前で分かりますように、静岡県の伊豆半島で新しく生まれた市でございまして、よろしくお願い申し上げたいと思います。

それでは、「一級河川狩野川と歩むわがまち伊豆の国市」と題しまして紹介させていただきます。

皆さんもご承知だと思いますが、日本一の富士山を有する静岡県は、日本の中部地方に位置しております。東西に長い面積を持つ静岡県は、東海道新幹線、東名高速道路など、東海道の主要幹線が東西に走るといった恵まれた立地環境を生かし、多彩な産業が集積した県でございます。

私どもの伊豆の国市は、伊豆半島の北部、田方平野のほぼ中央に位置しております。平成17年4月1日、3つの町が合併しまして誕生いたしました。市の面積は94.71平方キロ、人口は5万787人であります。

市内の伊豆長岡地区は、伊豆半島でも有数の温泉地で、多くの旅館や日帰り浴場も軒を連ねておりま

す。また、イチゴ狩りやミカン狩りなどの観光農園もあるため、年間を通じて多くの観光客に訪れていただいております。

韮山地区は、平野部に肥沃な田園地帯を形成しておりまして、また、貴重な歴史資源を多く抱えております。遺跡や古墳群のほか、鎌倉時代の源頼朝と北条一族に関する史跡、室町時代の北条早雲などにかかわる史跡や、江戸幕末の江川坦庵にかかわる史跡や文化財なども多くございます。

また、大仁地区は、伊豆箱根鉄道や国道136号線など、交通アクセスの利便性と１日の湧水量１万５千トンとも言われる豊富な水資源により、古くから商工業の中心地として発達してまいりました。

これらの３町が合併した伊豆の国市は、伊豆半島の中心を流れる１級河川狩野川に沿って東西15キロ、南北10キロの長方形となっており、地形的にも一体となった地域でございます。

ところで、今日、皆様方のところに本部から手提げ袋が配付されておりますが、その中に「伊豆の国市観光商工課」という封筒が入っております。その中に、実は「伊豆の国市」という名前をつけましたものですから、「入国心得」というパンフレットをお分けしてございます。これを読んでいただきますと、わが伊豆の国市にすべてフリーで入って来れる、これをよく読んでいただいてから入ってきていただきたいということでお分けしてございますので、ぜひご参照いただけると大変ありがたいと、こんなふうに思っております。

この入国心得10カ条でございますが、１として自然に恵まれた国、２古く歴史の深い国、３つとして温泉のわき出でる国、４つとして農業の盛んな国、５つとして商工業の盛んな国、６つとして医療の充実した国、７つとして魅力の豊富な国、８つ目として活気のあふれる国、９つとして文化の栄える国、10として伊豆の国市の数字を知るべしと、こんなふうに書き記してございます。日本の都市で何々の国という名前をつけた市は伊豆の国市だけでございますので、ぜひ覚えておいていただきたいと、こんなふうに思っております。

さて、先ほど紹介いたしました市内を流れる狩野川についてでございますが、紹介させていただきます。

狩野川が生まれたのが太古の昔、人がこの世にまだ姿をあらわす前のことでございました。伊豆半島が南の島からやってきて、本州と陸続きになりました。そうしてできた伊豆半島は、北は沈み、南は高くなり、雨水は天城山から駿河湾へ注いでおりまして、南から北に流れるということになりました。これが狩野川の誕生でございます。その狩野川の特徴でありますが、伊豆の国市の中央を流れる本川は、太平洋側では珍しく南から北へ流れるという、そして駿河湾に注ぐという特徴的な河川形態を持っております。

こうした狩野川の名称の由来でございますが、地名の軽野から変化したと言われる軽野説、焼畑農業のことを狩野と呼ぶことからつけられたと考えられる狩野説、そして、江戸幕府の資金源の金山があったことから、それが変化してつけられた金川説など、いろいろな説がございます。また、狩野川は友釣りの発祥地でございまして、日本屈指の鮎釣りの場でございます。全国の太公望が一度は訪れたい川と言われております。シーズン中は県内外からの数多くの釣り人でにぎわっております。

狩野川と古の人々の暮らしをひもといてみたいと思います。

狩野川流域では、豊富な水資源を利用して田畑を耕すようになり、豊かな農耕文化が生まれました。縄文時代中後期の竪穴住居や環状列石などが発見される上白岩遺跡、四大農耕集積遺跡の１つと数えられております弥生時代後期の山木遺跡、流域には数多くの遺跡が点在しております。このほかにも、各種の土器や石器など、流域各地で発見されております。また、狩野川が自由奔放に流れていたさまは、源頼朝の流刑の地蛭ヶ小島など、川にまつわる史跡が残されていることや、この地を訪れた井上靖、川端康成をはじめとする多くの作家が残したすぐれた作品の中に出てくる狩野川が、その流域の描写からも見てとれます。

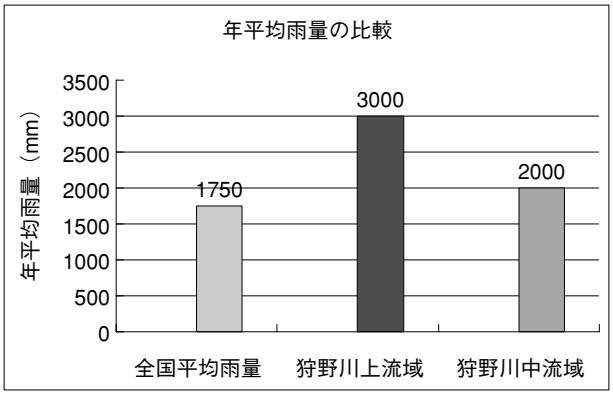
狩野川には、古くから「かわかんじょう」という行事がございます。狩野川の水神を供養し、水害から住民の生命、財産を守り、水死者を出さないようにと祈りの込められている行事でございます。

また、近年は、川に親しむレクリエーションとして、リバーカヤックなども行われております。カヤックを体験することで年間を通じて狩野川を身近に親しむことができます。また、カヌーや手づくりいかだ大会なども行われております。

この写真は、毎年８月初旬に市内の狩野川沿いの各地で行っております花火大会の一コマでございます。河川敷に特設会場を設け、趣向を凝らした各種

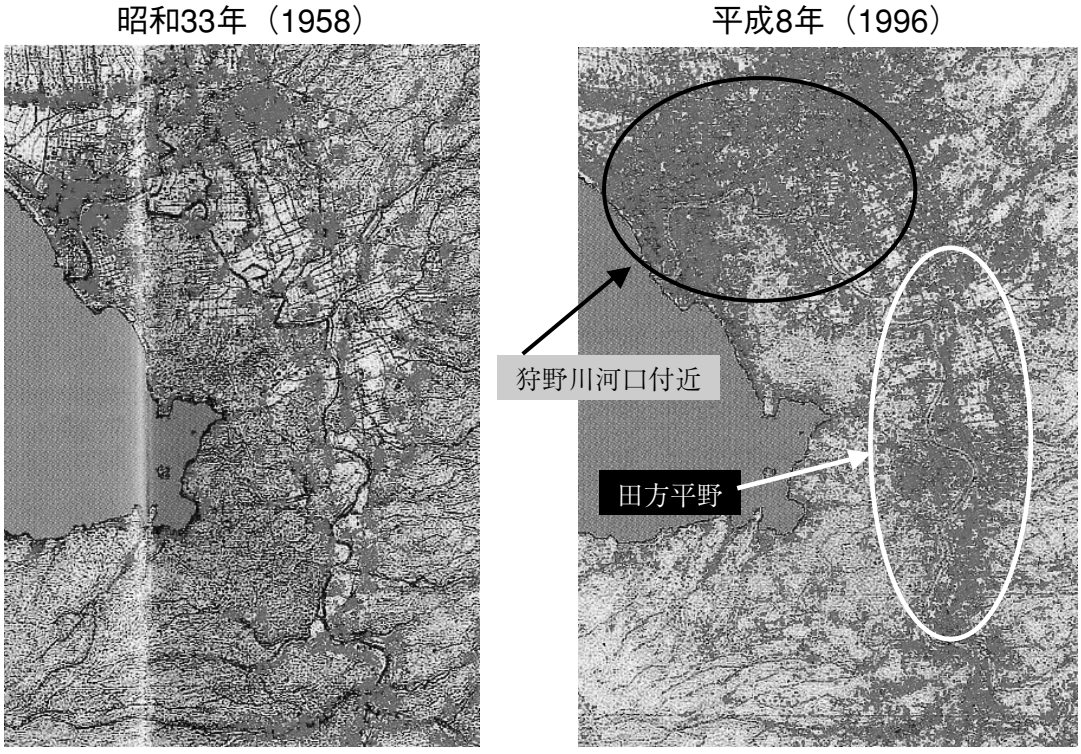
イベントが繰り広げられております。毎年7月の夜、狩野川の河原において伊豆の国市のシンボル的存在の城山を背に薪能を開催しております。演目には、一流演者の能はもちろん、地元小学生が演出する創作子供能がございます。子供能は、地元の民謡や伝承をアレンジした内容で、数カ月にわたる練習を積んで舞台に上がります。これは小学生の文化・社会教育の場として高い評価を受けております。また、川面にかがり火の映る幽玄な特設舞台で古典芸能を楽しむことができます。

一方、狩野川を語るときに忘れてはならないのが水害の歴史でございます。狩野川は、その地形的な特徴から南北に細長い「く」の字形をしております。水源であります天城連山は、年間降雨量3,000ミリを超える非常に雨の多い地域でございます。また、狩野川は、急流河川の上、台風の進路方向と同じ南から北に流れることから、古くから幾多の洪水被害を受けており、一たび豪雨となれば、川の水位は一気に増してはんらんし、濁流が人々を襲います。狩野川の水害記録は、江戸時代から昭和にかけて170回もの洪水記録が明確に残されております。



この図は、昭和33年と平成8年の市街地の発展状況を比較したものであります。これを見ていただきますとお分かりのように、田方平野及び狩野川河口付近の市街化が著しく発展しています。特に昭和40年の狩野川放水路完成後、田方平野に広がった氾濫低地の市街化が急速に進んでおります。この全体が田方平野でございます。ずっと流れておりますのが狩野川でございます。今申し上げました狩野川放水路がこの狩野川のちょうど伊豆の国市のところを沼津市の三津海岸に抜けております。このことによって、狩野川の洪水が大きく減ったということでございます。

台風の中でも、唯一河川の名前がついている台風がこの狩野川台風でございます。昭和33年9月26日、この台風により狩野川上流の山地では数多くの山腹崩壊が発生し、中下流では至るところ堤防が決壊・氾濫し、田方平野は泥海と化しました。台風通過が



田方平野付近の市街化状況

夜間だったため、被害も大きなものとなりました。狩野川流域内で死者684人、行方不明者169人、家屋被害6,775戸の大災害となったわけでございます。

その当時の伊豆の国市の千歳橋の状況でございます。流木等が橋にせきとめられたことによりまして、橋の上流部から水があふれ出て、この地域一帯は甚大な被害を受けたわけでございます。

このような狩野川も、今ではごらんのとおり整備されました。現在の千歳橋付近の状況でございます。河川は改修され、川はゆったりと流れております。これから気候がよくなりますと、散歩、ジョギング、サイクリングなど、ますます河川敷を利用する方が増えてまいります。

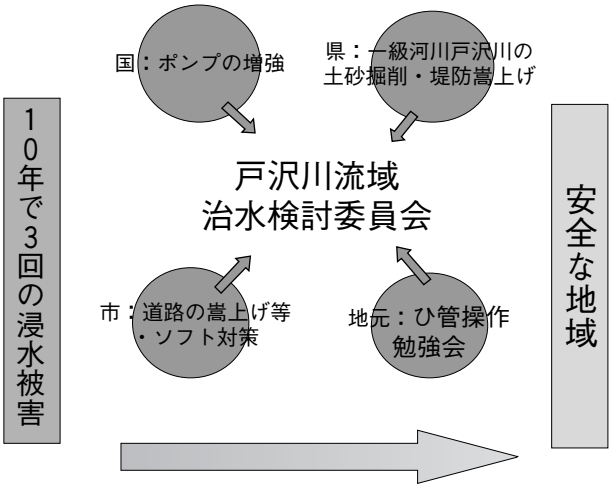
しかしながら、市内の狩野川水系の河川では、近年の多量の降雨によりまして浸水被害が発生しております。この画面は、平成16年の台風によります1級河川戸沢川における治水対策を紹介しております。

この写真は、旧伊豆長岡町役場前の現在の市役所前の浸水状況でございます。冠水しておりますが、これが国道414号であります。周辺交通にも大きな支障が生じたわけでございます。

伊豆の国市長岡地区（平成16年10月9日17時頃）
伊豆の国市役所前

この写真は、戸沢川と狩野川と合流する地点の浸水状況でございます。平成16年10月に伊豆半島を横断した台風22号により市内小坂長岡地区において床上浸水58戸、床下浸水27戸、浸水面積20.1ヘクタールに及ぶ甚大な内水被害を受けました。その対策を検討するため、地元住民、旧伊豆長岡町、静岡県、国による戸沢川流域治水検討委員会を設立し、災害による被害の軽減を図るため各主体が実施すべき対応策について協議をし、平成17年3月に合意したところでございます。住民、町、県、国による検討委員会で熱心に討論を行い、次のようなことを委員会で確認し、決定しました。

国、県、市、地元住民で治水対策計画を策定しました。その内容は、国は既設の小坂排水機場のポンプ増設、県は1級河川戸沢川の土砂掘削や堤防かさ上げ等、市はソフト対策として正確な情報伝達のシステムづくりや警戒避難体制の強化、地元は小坂排水機場操作体制の確立等であります。これによりまして、流域の安全度は高まることとなりました。

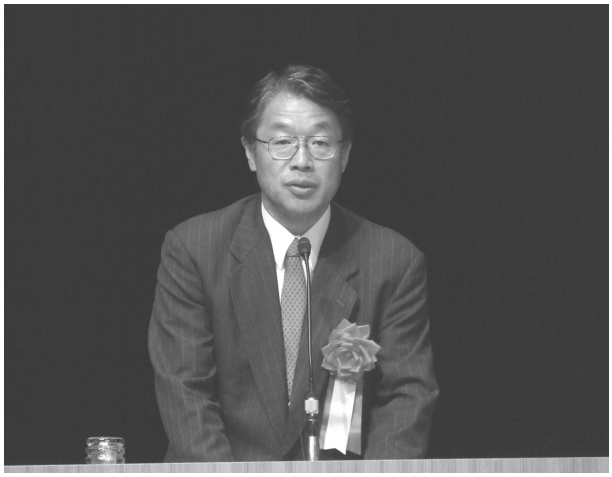


今後の狩野川の川づくりの進め方についてでありますが、狩野川流域には流域住民と一体となった治水対策など、この地域で育まれてきた文化や知恵があります。これらを学び、引き継ぎ、今後の川づくりに生かしていくことが大切であると考えております。狩野川に注ぐ河川の多くは、流域住民の身近にあり、生活と密接なかかわりを持っています。地域と連携することでよりよい河川となるように努めていくべきだと考えております。

最後に、伊豆の国市の独自の特徴を生かすためにも、狩野川の自然と富士山を背景とした景観を生かした魅力あるまちづくりを目指してまいりたいと思っております。

以上をもちまして意見発表を終わらせていただきます。ご清聴、ありがとうございました。

治水事業の視点



国土交通省河川局
治水課長　**関　　克　己**

ただいまご紹介いただきました国土交通省河川局治水課長の関でございます。よろしくお願いいたします。

今日は、皆様、この青森にお集まりのときでございますので、最近の川、あるいは水害をめぐる情勢についてご説明、ご報告をさせていただきたいと思います。パワーポイントを使ってご説明したいと思います。

いきなり災害の「災」でありますが、この災いを転じて福となすというところが私どもの仕事であろうと思っております。今日は多くの市町村長さんがお集まりでございますが、この災害の「災」、振り返ってみますと、この上は水をあらわしており、下は火でございます。消防団、水防団、実際、日本の災害というものは、まさに水の災害と火の災害が歴史的にもベースにある。ここを何とか安全にしていかないと、ほんとうに安全で安心した国土、国民生活が送れないということを、まさに文字どおりあらわしているのではないかと思います。

よく日本は「災害大国」と言われます。諸外国と比べましても、圧倒的に日本の自然災害は大きく、頻度も非常に大きいものがあります。さらに、それが気候変動の増大ということで、さらに増してきているということであります。

これは自然災害被害額の国際比較でありますが、全世界を現したものであります。不名誉といいますか、非常なハンディキャップをそういう意味では背負っておりますが、日本が実にこれだけの被害額を、面積にしてみますと0.25%にしかない日本が、世界中でいかに災害が大変であるか、経済的にも諸外国と列挙して競争していくためにも、まさにベースをしっかりしていかなければならないということであろうと思います。

災害というものは、ある意味で長期の波がござい

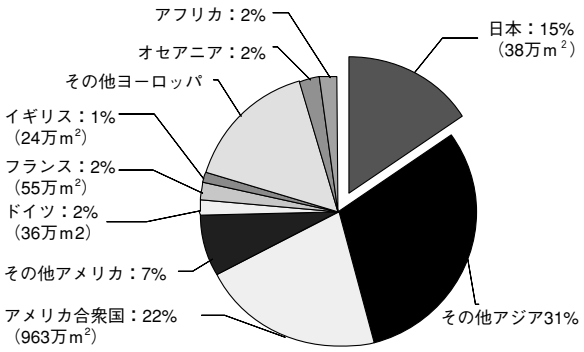
日本は災害大国
～防災の努力なくして安全・安心はない～

➢我が国は災害に脆弱な国土であり、自然災害の被害額も諸外国に比べ、非常に多い。

➢気候変動の増大により、台風や集中豪雨による災害が頻発。河川・下水道・海岸の施設能力を超過する災害も多く、安全基盤の確立が急務。

➢首都直下地震などが発生すると、経済・社会機能に壊滅的な被害を与える恐れ。〔最大死者13，000人、経済被害112兆円が見込まれる〕リスク軽減が喫緊の課題。

○自然災害被害額の国際比較（1970-2004　構成比）



ルーベン・カトリック大学災害症害研究センター（CRED）資料より作成

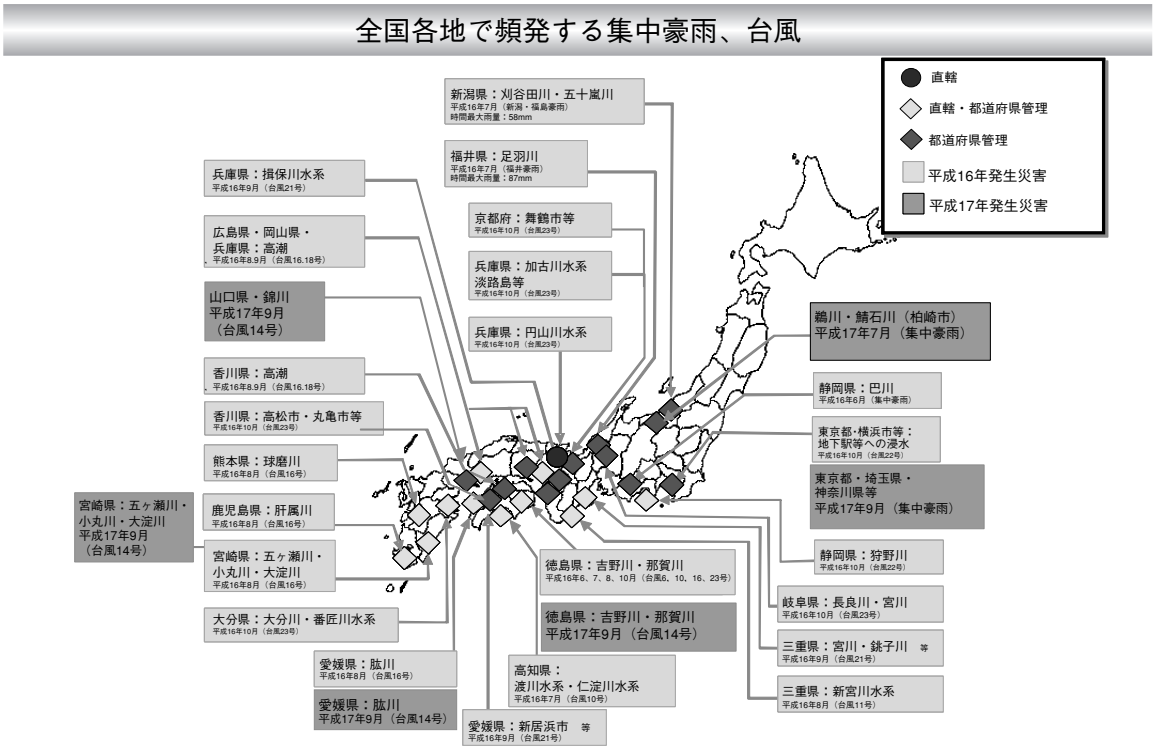
※日本の国土面積は、世界の0．25%

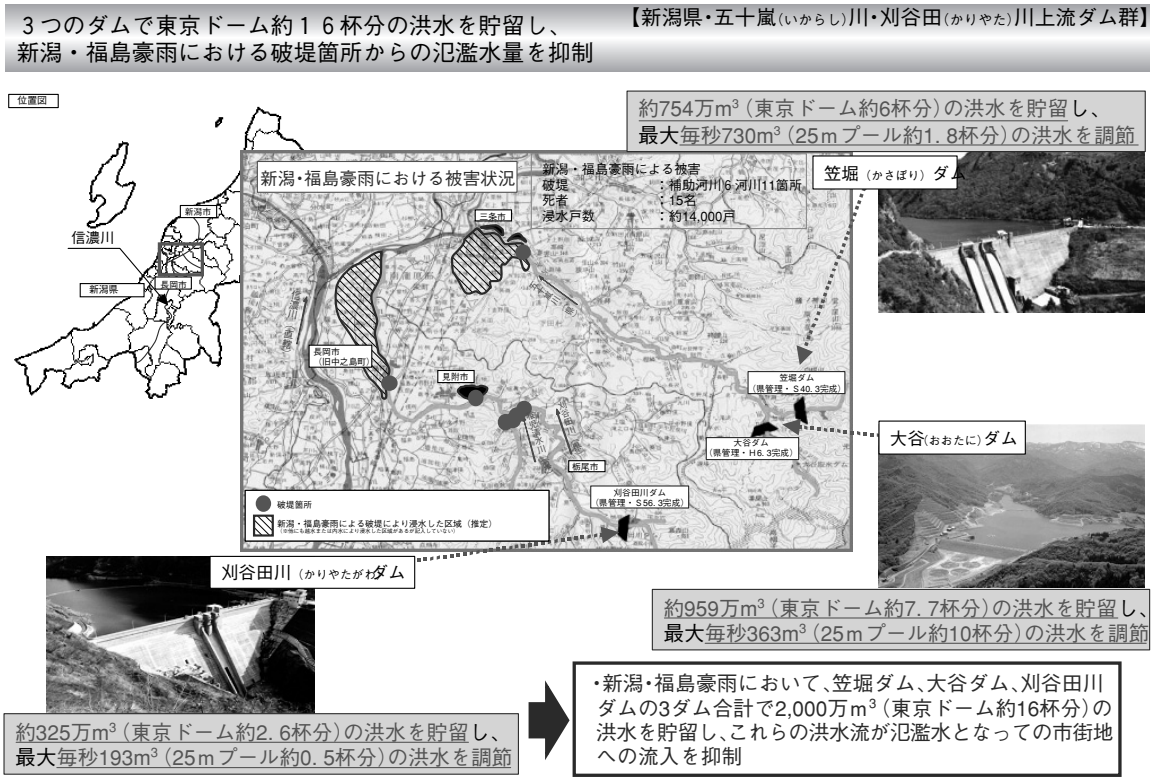
ますが、最近、非常に多くなってきていることを象徴している絵でございます。特にご覧いただきたいのはこの下の絵で、大体時間雨量100ミリ、もう前は見えません、車なんかとても運転できませんし、傘など全くさしていても無駄というのが100ミリであります。それが50年代は年平均２回、60年代も大体同じくらいだったのですが、近年は一気に4.7回、５回というような非常に激しい気象変動を象徴している、そんな状況になっている絵でございます。

すごい雨、雨の量、降り方がひどくなっているだけでなく、全国的にというのがこの地図でございます。これは平成16年、17年、災害が起きた箇所、特に大きな災害が起きた箇所でございます。幸いなことに、北海道、そして青森、東北地方は、この２年間ほど大きな――小さなと言うと叱られますけれども、ほんとうに大きな災害は起きていませんが、しかし、新潟から福井へ、そして九州へと、これだけ地図を塗りつぶすように全国で起きている状況がございます。

一方で、水害対策はもう要らないんじゃないか、もうダムも河川整備も終わったんじゃないかという話をされる方々がおられます。これは福井県の鯖江市の例でございますが、平成10年に災害が起きました。これだけの雨が降りました。そして、平成16年、もっとすごい雨が降りましたが、浸水戸数が今度はゼロになりました。なぜかと申しますと、河川の改修をやったからであります。改修したところはきれいに水害が起きなくなったということでございます。つい先日、鯖江市長さんにお会いしまして、鯖江市長さん、実に困っておられました。なぜかというと、まだやっていないこの上の箇所が水害に遭うわけでありまして、そうすると、市民から、何でおれのところはやってくれないんだと怒られます。まさに目に見える治水対策の効果、それが逆に市長さんを悩ましておるわけでありまして、誠に申しわけないと思っておりますが、全国でこれだけ災害が多くなりますと、治水対策をした箇所としない箇所の差がものすごくはっきりしてまいりました。

これは、新潟豪雨の７・13災害のときでございます。あのときも大きな災害が出ましたが、五十嵐川、刈谷田川という２つの川の上流にダムがあったからこそ、災害があそこで止まったという１つの例でございます。それから、今日、福井市長さんもお見えになっておられますが、まさに福井市でよくおっしゃっておられますのは、ダムがあった川とない川とで災害がこれほど違うものか、明らかに違うということをおっしゃっておられます。こういう災害がたくさん起きている中で、ダムの効果、あるいは堤防をしっかりつくっていく効果が、より一層顕著になって分かるようになってきているということだろ





うと思います。

昨年も、災害が起きました。これは九州熊本県の球磨川でございます。人吉市の市街地の真ん中を流れる球磨川でございますが、もうほんとうにあふれる寸前までいっております。宮崎県の延岡市でございます。大きな工場がありますが、その工場もまた水に浸かりました。最近の水害のもう一つの特徴は、皆様方がご苦労されてせっかく企業誘致をしても、災害に遭って、また移転しようかなんて話が出てしまう。やはり地域の産業・経済を支えるという意味でも、水害対策はしっかり私どもは取り組んでいかなければならないと思っております。

そして、何といっても首都東京のど真ん中で、これは夜中ですが、洪水がもう橋の上を乗り越えてあふれている写真でございます。やはり先進国日本としては、首都東京ですらこのような状況が起きてしまうということは非常に残念に思っております。

これは、テレビでも新聞でも多く報道されましたが、カトリーナ、アメリカでの災害でございます。これは、日本の道路を走れないような大きなコンテナでございますが、まるでマッチ箱のように流され、飛ばされ、集まっている。いかにカトリーナの力が大きかったかということを如実に現していると思います。

一番のポイントは、カトリーナの被害額が、実は日本円にして14兆円になります。これは全部アメリカ政府の発表をベースにしておりますが、このカトリーナの対応で、もし事前に2,200億円の対策をとっておけば被害が起きなかったということでございます。60倍。いろいろ最近、投資の問題がいわれておりますけれども、実に60倍の利益を得ることができたということでございます。これは直接被害だけでございますが、非常に大きな効果が、計画的に、先行的にやっておけばあったということでございます。

これはアメリカだけではございません。日本でも振り返ってみますと、平成12年に東海豪雨、これは名古屋近傍でございますが、このときの被害額6,700億円、その後の投資を激特で行いましたが716億円の投資をしておけば5,500億円の被害が防げた。さらには、福岡の例でございますが、553億円の投資をしておけば4,600億円の被害が防げた。まさに治水投資というものの性格をあらわしているのではないかと思います。

ところが、財政については、国も、あるいは今日、皆様方も非常にご苦労されているわけですが、これは水害特別会計でございまして、浸水被害を受けたところの負債がどれぐらいたまっているかということであります。全国で床上浸水だけに絞ってみましたが、平成4年から平成13年、15万戸被害を受けて

事前投資による被害軽減効果（ハリケーン・カトリーナ）

・総被害額は約1, 250億ドル[1]（復旧に向けた補正予算だけでも６２３億ドル（約６．９兆円））

・一方、事前予防に必要な費用は約20億ドル[2]（カトリーナと同規模（カテゴリー５）に対応する費用）

※想定される１，０００億ドルの被害と１０万人の人命に比べ効率的と2004年から主張[2]

※被災地区の事業（カテゴリー3対応、2015年完成目標）について、工兵隊では財源不足による事業の遅れを認識[3]

被害の概要（ニューオリンズ市）

死者数	：	1,204人（10月3日現在）
浸水面積	：	市の陸域の80％
浸水戸数	：	16万人
総被害額	：	1, 250億ドル（約14兆円）
復旧費用	：	623億ドル（6兆8500億円）
復旧体制	：	5万人以上の陸・空軍兵士を派遣

事業計画（カテゴリー3対応の堤防整備）

完成予定：　2015年

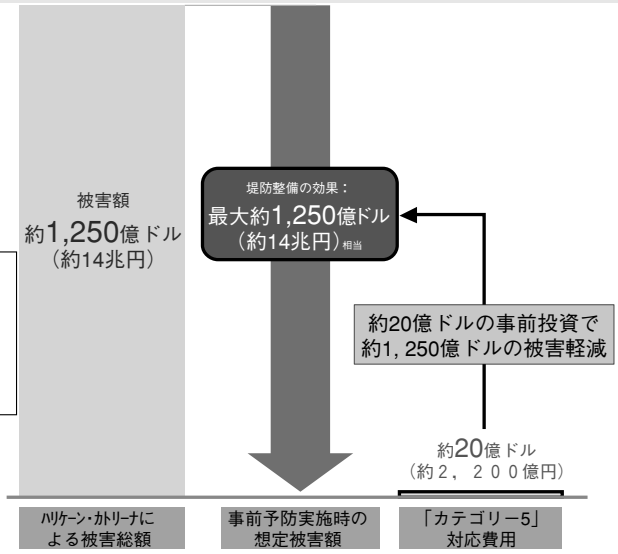
全体事業費：7. 38億ドル

2004年度予算配分額	0. 04億ドル
2005年度　〃	0. 05億ドル
2006年度大統領予算教書の額	0. 03億ドル

進捗状況：Jefferson郡 約70％、Orleans郡　約90％

事業試算（カテゴリー5対応の堤防整備）

費用：　２０億ドル（約２，２００億円）[1]

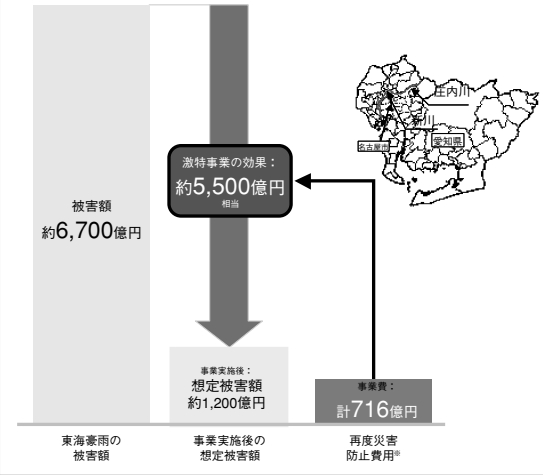


1）国連の国際防災戦略（ISDR）からの記者発表資料（2006.1.30）
2）陸軍工兵隊機関誌”River Side”September-October 2004
3）陸軍工兵隊ニューオリンズ事務所HP

事前投資による被害軽減効果

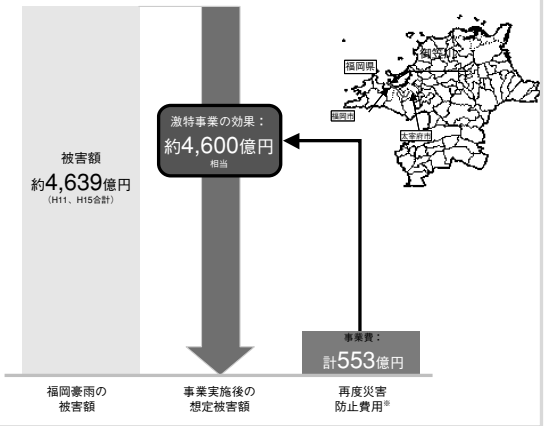
■事例１：東海豪雨（H12.9）【愛知県　庄内川（しょうない）・新川】

716億円の事前投資で約5,500億円の被害軽減



■事例２：福岡豪雨（H15.7）【福岡県　御笠川（みかさ）】

553億円の事前投資で約4,600億円の被害軽減



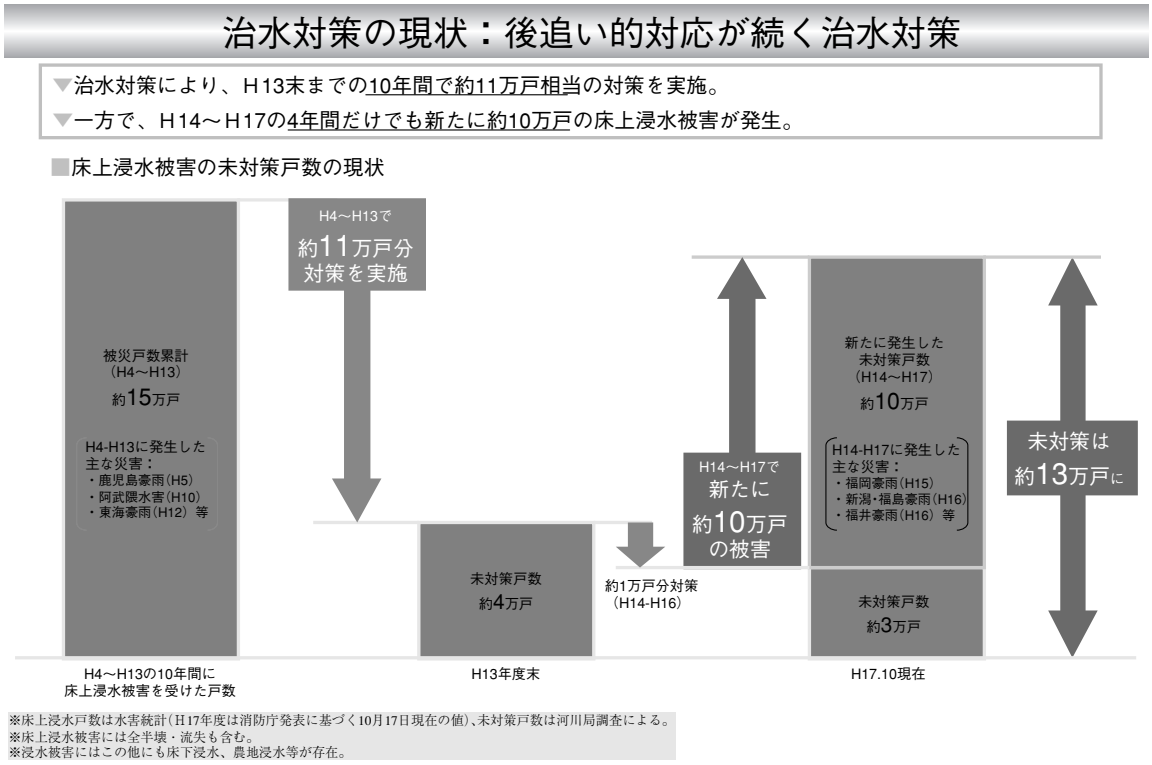
■その他の事例

災害名	県名	河川名	被害軽減効果	再度災害防止の投資額
新潟・福島豪雨（H16.7）	新潟県	五十嵐川（いからし）・刈谷田川（かりやた）	約2,300億円	1230億円
福井豪雨（H16.7）	福井県	足羽（あすわ）川	約540億円	355億円

※「再度災害防止費用」の内訳は以下の通り。
東海豪雨：庄内川・新川河川激甚災害対策特別緊急事業（H12-H16）
福岡豪雨：御笠川河川激甚災害特別緊急事業（H15-）
※同様の降雨による内水又は越水による被害を計上。
※一部区間でＨＷＬを超える場合があるが、破堤は想定していない。

おります。それに対して、国、都道府県、市町村、皆さんと一緒になり私ども取り組みまして11万戸分を何とか解消しました。ようやく４万戸まで減ったと思っておりましたら、新たに10万戸増えてしまいました。現在、水害特別会計は全国で床上浸水の被害を受けられた皆様方をまだ13万戸の対策を進められない、これからやっていかなければならない、今そういう状況にあります。

そういう中で、公共事業の予算、これは全体でございます。それから、治水関係予算でありますが、



ピークの約半分というような状況にまでなってきております。そういう意味で、水害対策というものを私どもも一生懸命全力で取り組まなければならないと思っています。

一方で、やはり川はいろいろな恵み、潤いをもたらしてくれますし、多くの人がまちに集まる、あるいは川に集まるということもとても大事なことであると思っております。これは、北九州市の紫川の例でございますが、こういった風景であったものが一変しまして、今では多くの人が、あるいは観光客の皆さんがたくさん集まるという川になっております。

これは、名古屋の堀川でございます。私も何年か前に住んでおりましたけれども、そばにいるだけで嫌な川でした。臭くて汚くて。それが、浚渫し、ヘドロを取り、きれいになり、そして河川の整備を行うことで、今は観光客も歩く、あるいは市民の皆さんも歩く、こんな川になってきております。

先ほど長井市長さんのフットパスの話もございました。これは愛媛県の小田川でございますが、治水対策とあわせて、多くの人が集まる、そんないい川に魅力ある川にしていきたいと思っております。

また、先日、全国でふるさとの川に関わっておられる市長さん方がお集まりの機会がありまして、私ども提言をいただきました。何かというと2つあります。1つをご紹介いたしますと、観光客の皆さん、あるいは多くの人が川に集まるのにトイレが何とかならないかという話でございます。これは、おっしゃるとおりでありまして、私どもも市町村長さん方と一緒になりまして、川のトイレを何とかするということを全力をもって取り組みたいと思っております。

災害から、安全で安心できる、そして多くの人が集まれる川を皆様方のご支援をいただきまして目指していきたいと思っております。

最近の状況についてご報告させていただきました。ご清聴ありがとうございました。

大会決議

青森県河川海岸協会
副会長
平内町長
逢坂雄一

治水事業の重要性を強く訴え、事業の推進を図るため決議（案）を朗読いたします。

決　議（案）

治水事業は、国民の生命と財産を守る最も根幹的な事業であることから、「国家百年の計」として、国が責任を持って実施しなければならない。

わが国では、自然災害に対して脆弱な国土条件の中、営々と実施されてきた治水事業により、治水安全度は着実に向上した。しかしながら、最近10年間を見ても、家屋被害約65万戸、死者・行方不明者623名もの被害が発生するなど、全国各地において、多くの生命と財産が失われており、決して十分な状況とはいえない。

昨年は、台風14号により九州では総雨量1,000㎜を超える豪雨を記録するとともに、東京23区では時間雨量100㎜を超える異常とも言える降雨が発生した。海外においても、巨大ハリケーンによって米国ニューオリンズのゼロメートル地帯を中心に甚大な高潮被害が発生する等、国内外を問わず、近年、気候変動等の影響による集中豪雨等により、被害が増加傾向にある。

このような状況から、地域住民の生命と財産を守る堤防やダム等の施設の整備を、これまで以上に、より強力に推進していく必要があるが、治水事業予算は、この数年の間、厳しい財政状況を背景に大きく縮減され、災害軽減のための事前投資が困難となっている。

この災害の後追い的対応に終始する現実に接し、地域住民の生命の安全に責務を負うわれわれとしては、不安な思いを抱かざるを得ない状況にある。そして、安全・安心な社会の構築、ひいては国家の繁栄を考えると、治水事業予算の縮減が、将来に大いなる禍根を残すと危惧している。

ここに、われわれはかかる事態を憂慮し、全国治水大会を開催し、その総意に基づき、21世紀にふさわしい安全で安心な国土づくりが推進されるよう、次の事項の実現について、国会ならびに政府に対し強く要望する。

記

一、激甚な災害が頻発しているにもかかわらず、治水事業費は縮減され、既に景気対策を行った以前の水準を割り込んでいる状況である。洪水被害を未然に防止し、安全で安心な国民生活の確保を図るため、治水事業費の増額を図ること。

一、治水対策の根幹である堤防やダムの整備等を強力に促進するとともに、ハザードマップの整備、避難体制の構築、土地利用と一体となった治水対策等ハード・ソフトが一体となった治水対策を強力に推進すること。

一、大規模な津波や高潮による壊滅的被害を軽減するため、ゼロメートル地帯における河川堤防の高潮・耐震対策を強力に推進すること。

一、人命被害に直結する内水被害を解消するため、総合内水対策を緊急かつ強力に推進すること。

一、排水ポンプ車等の災害対策用機械の配備を推進し、広域的な危機管理体制の強化を図ること。

一、地域の活性化や再生を図るため、川沿いの植樹、清流の復活、川の散歩道等、河川や水辺の持つ多様な機能を活かした「かわまちづくり」を、市町村と連携し、強力に推進すること。

一、治水施設の機能維持のために必要な管理レベルを定めることにより、効率的、効果的な河川管理を強力に推進すること。

以上決議する。

平成18年6月8日

全国治水大会

次期開催地あいさつ

栃木県土木部河川課長
宮　崎　一　義

栃木県の河川課長の宮崎でございます。

このたび、次期全国治水大会の開催地としましてご決定いただき、200万県民を代表いたしまして心より感謝申し上げます。

栃木県は、県土の３分の１が「東の四万十川」と言われている清流那珂川であり、また、３分の２が関東平野を流れる坂東太郎、利根川の上流域に位置しております。緑豊かな自然環境は、首都圏の水資源の確保や防災の面でも大きな役割を発揮しております。

また、世界遺産に登録された日光東照宮等の２社１寺、ラムサール条約にも登録されました奥日光戦場ヶ原の湿原、また、ギネスブックにも登録されております世界一の日光杉並木をはじめ、豊かな自然と鬼怒川温泉等の温泉地を数多く有しており、首都圏では「いやしの栃木」と言われております。

来年度の開催に当たりましては、大会が有意義なものとなりますよう、今後関係機関と協議の上、万全の態勢で準備を進めてまいりたいと思っておりますので、来年の大会にも多くの皆様方が栃木県に来ていただけますようお願いいたしまして、次期開催地を代表しましてのごあいさつとさせていただきます。

閉会のことば

青森県県土整備部長
羽　原　　伸

青森県県土整備部長の羽原でございます。治水大会の閉会に当たりまして一言ごあいさつを申し上げます。

本日は、多くのご来賓の皆様方をお迎えし、また、全国各地からこのように多数のご出席をいただきまして平成18年度全国治水大会青森大会を盛会のうちに閉会を迎えることができましたことに心より御礼申し上げます。

本日、今大会でいろいろと貴重なご意見をいただき、また、現下の情勢等についてもお話を頂戴しました。今大会の成果を十分に踏まえまして、今後ともより一層治水事業の着実な推進を図っていかなければならないと存じます。

今後、皆様方各地域の治水事業のさらなる進展と、本日ご出席の皆様方のご健勝、ご活躍を心より祈念申し上げまして閉会の言葉といたします。

特別講演

講　師　岩谷勇幸　先生
演　題　9月15日「祝　岩木川の日」
～水と戦った先人達に思いを寄せて～

全国治水大会に先立ち、講演会が開かれました。
岩木川改修の歴史をひもとき、洪水に苦しめられた人々の苦労や、私財を投じて岩木川改修に取り組んだ先人「小野忠造」の労苦を題材にして、郷里五所川原市の発展を明快にそして楽しくご講演をいただきました。
なお、講演の内容は、割愛させていただきました。

プロフィール
氏　名　いわやゆうこう
生　年　1954年1月
出身地　青森県五所川原市
略　歴
青森県立五所川原高校卒業
店舗設計・施工会社モダンフリークス代表
岩木川と地域づくりを考える会副会長
NPO法人「プロジェクト五所川原倶楽部」代表理事
㈳五所川原観光協会常務理事
五所川原市「立佞武多の館」館長
現　在　市民劇団「橇の音」代表、「祝　岩木川の日」仕掛け人、平成14年、15年全国の「いい川・いい川づくりワークショップ」に参加し、全国に情報発信する等ご活躍中

現地研修

大会の翌9日は、今にも雨が降り出しそうな天候のもと、青森県内を5コースのバスに分乗して、治水関連施設の研修に約230人を超える者が、現地研修に参加いたしました。

Aコース　横内川多目的遊水地と青森市内
Bコース　岩木川みずべの学習広場と津軽方面
Cコース　蔦川火山砂防事業と奥入瀬・十和田
Dコース　津軽ダムと白神方面
Eコース　浅水川河川改修と県南方面

いずれのコースも、車中では県職員から事業の概要説明を聞いた後、現地では小雨の降る中事業の担当職員からご説明をいただき、有意義な研修となりました。

蔦川火山砂防の事業説明

目屋ダム天端での概要説明

＜全水連だより＞

第58回　通常総会を開催

全水連の第58回通常総会は、全国から会員約900名が参加して、次のとおり開催されました。

と　き　平成18年6月8日(木)　13：00～
ところ　青森市ぱるるプラザ青森

規約の規定により、陣内全水連会長が議長となり、早速議案の審議に入りました。議案は次のとおりです。

第1号議案　平成17年度事業報告
第2号議案　平成17年度収支決算の承認を求める件
第3号議案　平成18年度事業計画案の承認を求める件
第4号議案　平成18年度収支予算案の承認を求める件
第5号議案　役員改選に伴う就任について承認を求める件

第1号議案から第5号議案まで、いずれも原案のとおり議決承認されました。議案審議の終了後、先の評議員会で一部役員の交替があり、このうち本日出席されている次の新旧役員が紹介された後、総会を終了いたしました。

理事　鹿野　文永（宮城県旧鹿島台町長）（前）
理事　福島　弘芳（つがる市長）（新）
理事　酒井　哲夫（前福井市長）（前）
監事　佐々木功悦（宮城県美里町長）（新）

なお、平成18年5月30日開催の評議員会において、新しく選任された役員は次のとおりであります。

任期　選任の日から平成19年5月31日まで（前任者の残任期間）

役職	前任者			後任者	
	氏名	公職名	辞任理由等	氏名	公職名
理事	鹿野　文永	旧宮城県鹿島台町長、前宮城県治水協会会長	市町合併により辞任	福島　弘芳	つがる市長、岩木川上中流改修期成同盟会副会長
	今成　守雄	前羽生市長、前埼玉県河川協会副会長	5月1日逝去	岡村幸四郎	川口市長、県南治水促進期成同盟会会長
	酒井　哲夫	前福井市長、前近畿直轄河川治水期成同盟会連合会会長	任期満了により退任	坂川　優	福井市長、近畿直轄河川治水期成同盟会連合会会長
監事	佐藤武一郎	旧宮城県三本木町長、前多田川改修促進期成同盟会会長	市町合併により辞任	佐々木功悦	宮城県美里町長、江合・鳴瀬・吉田川直轄改修促進期成同盟会会員